ありまつの町並み散策コース　―史跡・文化財・その他散策案内―

◎有松の絞りと町並み

有松は慶長１３年（１６０８）に尾張藩によってできた町である。宿は設けられず農耕に適した土地も少なかったところから、往来する旅人向けの土産として絞り染め（有松絞り）が考案された。やがて藩の庇護の元、東海道の名産としてめざましい発展を遂げた。

天明４年（１７８４）の大火により町中が灰になったが、尾張藩の庇護と人々の努力により、火災に備えた瓦葺きや塗籠造りの建物が出現し、現代のような重厚な町並みが整っていった。

明治に入ると東海道の往来者が大きく減り有松絞りは衰退するが、卸売販売への業態変換や嵐絞りなどの新たな意匠や製法の開発により再興し、明治後期から昭和初期に大いに繁栄した。

現在でも東海道沿いの主屋は、伝統的な木造２階建・切妻屋根・平入りを基本とした町並みが残された。

平成２８年（２０１６）７月に、重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

令和元年（２０１９）５月には「江戸時代の情緒に触れる絞りの産地～藍染が風にゆれる町有松～」のストーリーが日本遺産に認定された。

①名鉄有松駅（めいてつありまつえき）

現在、名鉄名古屋本線は岐阜～豊橋間に通じている。大正６年(１９１７)、始めは神宮前(熱田)～笠寺間、続いて有松まで開通。この計画の時、有松界隈では絞り商が土地の斡旋などをして協力した。井桁屋、橋本屋が大株主になり、笹加は取締役であった。

自分の土地の中を電車が走る往時の絞り問屋の繁栄ぶりが伺い知れる。

②藍染川（あいぞめがわ）(手越川)

桶狭間の武路の長池から有松裏を流れ、扇川に合流する。昔から有松の人々は藍染川と呼び、上流に染め屋(紺屋)があり、日によって川の色が変わった。

●小路（こうじ）

昔は東海道の町並みより裏地に抜ける小路が各所にあった。また裏路があり生活道路でもあり、染め屋や絞り職人が行き来した路であった。

③松野根橋（まつのねばし）

東海道の藍染川に架かる橋で、有松の東の外れにあった。昔は筋違橋と呼ばれ、川を斜めに渡るところからこの名前がついた。

⑤東海道（とうかいどう）

現在街道は知立から豊明、落合を経て有松では国道一号線に交差平行し、鳴海からは北へ離れ三王山、天白橋、笠寺観音、戸部神社、山崎川を渡り、八丁畷からまた国道一号線に平行し、熱田湊跡まではほぼ辿ることができる。

⑦有松山車会館（ありまつだしかいかん）

有松には昭和４８年(１９７３)に市の有形民俗文化財に指定された「布袋車」「唐子車」「神功皇后車」の３輛の山車がある。

昭和６３年(１９８８)にいつでも見られるように建設された。館内では３輛のうち１輛を交互に陳列展示している。

⑧有松の山車庫（ありまつのだしぐら）

「布袋車」「唐子車」「神功皇后車」の３輛は、それぞれ東町(橋東町)、中町(清安町)、西町（金龍町）の所属で庫に納められ、３町が祖先から受け継いだ宝として保管している。

毎年１０月の第一日曜日の天満社秋季大祭に東海道を曳き回す。

⑨有松・鳴海絞会館（ありまつ・なるみしぼりかいかん）

昭和５０年(１９７５)県内の伝統産業のトップをきって、有松・鳴海絞りは国の伝統的工芸品に指定された。製品の保存と展示を目的として、同５９年（１９８４)有松絞商工協同組合が建設した。

隣の信用金庫と町並みの景観に合わせた塗籠造りになっており、それを機に、有松絞りまつりが再開されることになった。会館では絞り製品の販売、歴史資料・製品の展示、絞り加工技法の実演、ビデオなどを見ることができる。

⑩竹田庄九郎碑（たけだしょうくろうひ）

慶長１３年（１６０８）尾張藩の奨励で知多郡の阿久比庄から、竹田庄九郎始め８名の者が新しく村を開拓し、庄九郎が絞りの技法（九九利染)を考案した。この功績を称えて昭和７年（１９３２）に有松絞商工協同組合が「有松絞開祖竹田庄九郎之碑」を建立した。

隣に「絞り中興の祖鈴木金藏翁の顕彰碑」がある。

⑬天満社（てんまんしゃ）

江戸時代の中頃から有松の人々の氏神で、元は祇園寺の境内に天神を観請し寛政１０年（１７９８）頃、寺の後山の頂上に移され文政７年（１８２４）に現在の社殿が当時の絞り商たちの寄進により造営された。屋根の装飾は精巧で見事なものである。

山頂には社殿が建てられる以前に数千人の人々により捧げられた詩・歌・文章を埋納したので文章嶺もしくはフミノミネと称されている。

⑭大雄山祇園寺（ぎおんじ）曹洞宗

宝暦５年（１７５５）に鳴海の猿堂寺より移し建立。有松の人々の菩提寺である。有松絞りの発展に寄与した藩主義直公や、絞りの開祖竹田庄九郎、中興の祖鈴木金藏など功労者を祀っている。境内には天保１２年（１８４１）に三十三観音石仏が建てられている。有松の絞り商や紺屋の人々が一体一体寄進したもの。その隣には地蔵菩薩、薬師如来、不動明王、弥勒菩薩の石像が並んでいる。また、文政１１年（１８２８）に造られた仏足石があり、お釈迦様の足の裏の形が彫られている。

⑮有松の一里塚（ありまつのいちりづか）

祇園寺の西に大正時代まで残っていた一里塚の築山が、平成２４年（２０１２）元の場所に有松一里塚として完成。東海道の一里塚は、西は笠寺、東は阿野にあり、いずれも史跡となっている。

⑯長坂道（ながさかみち）

江戸時代以前より、祇園寺前から桶狭間を通り大府や刈谷へ行く古道があり、戦前までは多くの人々に利用されていた道であった。

●秋葉社（あきばしゃ）

祭神は火伏の神の火之迦(ほのか)具土(ぐつち)神で有松には５社ある。祇園寺境内、西町（長坂道)、中町（天王坂)、東町（有松中学校の東）、松原（名鉄変電所西)にそれぞれ祀られている。

◎有松の町並み案内（東海道筋）

1　服部邸（はっとりてい）(井桁屋)

屋号は井桁屋。有松を代表する建物で創業は寛政２年（１７９０）。棟数は１１棟の大屋敷で間口は約４５ｍある。建築様式は卯建、塗籠造り、海鼠壁、連子格子と有松の町屋建築のすべての特徴を備えた建物である。かつては、線路を越えて北の敷地まで屋敷地であった。平成７年（１９９５）庭のクロガネモチが都市景観保存樹に指定された。

2　蔵工房（くらこうぼう）

井桁一さんの裏土蔵で、昔は材木蔵。現在は染色作家早川嘉英さんのアトリエとして使われ、創作活動の拠点として活用されている。

3　竹田邸（たけだてい）(東竹)

通称、東竹といわれ、隣のビルまで一棟の大きな主屋で、天保２年（１８３１）に建造された。

当時宣伝用に安藤広重などに浮世絵を描かせており、大きな暖簾に十と描かれた店はこの竹谷佐兵衛のお店であった。

7　服部邸（はっとりてい）(井桁一)

明治中期の建物で、井桁屋の分家である。主屋、蔵等が当時のまま残されている。虫籠窓の格子は金属製の丸棒で、有松の繁栄の時代を伝える遺構である。戦後しばらくは絞り商を営んでいた。蔵は井桁屋から分家のおりに譲られたもの。

8　棚橋邸（たなはしてい）

明治初期の建物。特に2階の梁は長さ16m。井桁屋の本家で大井桁屋といわれ、当地では最後まで旅人に絞り商品を販売していた店である。昭和８年（１９３３）から棚橋病院として約５０年間使われてきた。

9　山口邸（やまぐちてい）(舛屋)

江戸末期の建築で、主屋は間口１０間ある。小田切春江の錦絵によれば、通りから店の奥まで見通すことが可能な有松の定型的な店構えになっていた。

10 中濱邸（なかはまてい）

明治中期の建物で、二階は黒漆喰塗り仕上げの塗籠造りである。当初は絞り商の山田与吉郎の建物で、平成１６年（２００４）から中濱家の建物として使われている。敷地境界を取り囲む門塀や石積みも、当初の屋敷構えを示している。

東側の駐車場は染め物工場であった。

14 竹田邸（たけだてい）(竹田嘉兵衛商店)

屋号は笹加。建物は江戸末期から明治期にかけての絞り問屋の特徴をよく残している。

明治１２年（１８７９）頃に土地・建物が解体整理された竹田庄九郎家の一部を取り込んでいる。明治から大正にかけて増改築された洋間・書院座敷等が残り、建築学的にも貴重な建物となっている。特に１４代将軍徳川家茂が訪れたとされる茶室は重厚な造りである。

主屋の屋根には、明治期のガス燈の名残りのランプがある。

15 岡邸（おかてい）

建物は江戸末期の建築。絞り商丸屋丈助の名で錦絵に描かれた有松の代表的な主屋である。重厚な絞り問屋の建築形態をよく残した建物で、一棟の建物としては有松で最大級の建物である。

２階窓の優美な縦格子、軒は防火のため、波状で美しい外観を備えた建物である。

16 小塚邸（こづかてい）

江戸末期の建物。屋号を山形屋といい明治期まで絞り問屋を営んでいた。卯建を上げる主屋が特徴的で、軒下には駒止の金具が残っている。重厚広壮な有松の絞り問屋の形態をよく留めており、有松の家並みの景観上からも貴重な建物である。

参考資料

有松町史、緑区誌、緑区の歴史、名古屋の史跡と文化財、名古屋市史、有松まちなみと山車、愛知県地名大辞典、日本史大事典